

大阪・長原遺跡



(大阪東南部)

所在地 大阪市平野区長吉出戸八丁目

調査期間 N G O 四一三次調査 二〇〇四年(平16)九月

2 1
3
4
5
6
7
8
9
10

発掘機関 (財)大阪市文化財協会

調査担当者 杉本厚典

遺跡の種類 集落跡

遺跡の年代 旧石器時代～近世

遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は長原遺跡東北部に位置する。

縄文時代中期頃の河成堆積
によって形成された、南東

から北西へ延びる出戸自然
堤防の北東縁にあり、北な
いし北東に向かって下がる
斜面部に立地する。

調査地は弥生時代には居
住域であったが、古墳時代

後期から奈良時代にかけて、
出戸自然堤防の縁辺に沿つ

て流れる河川の通り道となる。

木簡は第六 b 層を除去した排土の中から見つかった。第六 b 層は SD 六〇一、SD 六〇二を埋積した水成層であり、腐植物が比較的多く含まれていた。この地層は飛鳥時代の河川が埋没した上に形成されており、第六 b 層上位の第六 a 層（流路内堆積層）からは奈良時代の人面墨画土器が出土した。

第六 b 層の排土は約三m³あり、これらを細かく碎いて他の削屑が存在するかどうかを調べた。土器の細片、腐蝕した植物片は出土したが、木簡は出土しなかつた。

8 木簡の釈文・内容

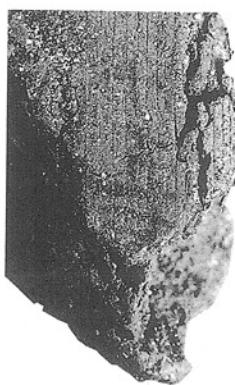
(1) 十五束

長さ一一〇mm幅一五mmを測る比較的大きな削屑である。赤外線撮影により「十五束」の文字を確認することができた。また、この削屑に直接付着していた土に墨痕が転写しており、そこには「十五」と「束」の上部が認められた。これらのことから、「十五束」と書かれていたとみられる。

9 関係文献

(財)大阪市文化財協会『長原遺跡東部地区発掘調査報告』X (二〇〇七年刊行予定)

(杉本厚典、釈文 古市 晃・鳥居信子)



削屑の墨痕が転写した土



十五束